GINGA REPORT 401

No.91
2022.12

そらんぽ四日市 検索

発行日：令和４年１２月１日
編集＆発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

１２月の星空

星図：ステラナビゲータ１１/(株)アストロアーツ

温かい星々

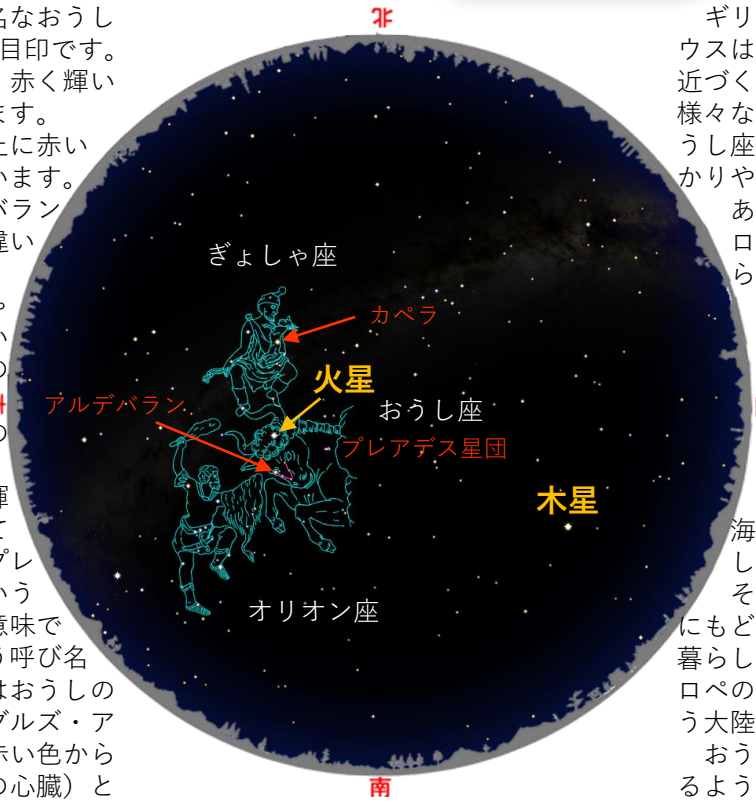
誕生日の星座としても有名なおうし座は、1等星アルデバランが目印です。オリオン座の北西に位置し、赤く輝いているため、すぐに分かります。

ただし今年は、その少し上に赤い火星が非常に明るく輝いています。火星はまたたかず、アルデバランはまたたくという光り方の違いから見分けられます。

またお隣の星座、ぎょしゃ座にあるカペラは黄色く輝いています。温かみのある色の星が一直線に並んでおり、寒い冬の空を温めているかのようです。

おうし座の肩のあたりで輝くプレアデス星団につづいてのぼるアルデバランは、「プレアデスにしたがうもの」という意味をもち、日本では同じ意味で「スバルノアトボシ」という呼び名があります。アルデバランはおうしの右目にあたるため、英名はブルズ・アイ（おうしの目）。他にも赤い色からか、コル・タウリ（おうしの心臓）という呼び名もあります。

12月15日21時の星図



変身したゼウス

ギリシャ神話では、全知全能の神ゼウスは、心惹かれた容姿端麗な人々に近づくときに、はくちょうやわし等、様々な姿に変身しています。中でもおうし座の牡牛は、顔の部分のV字がわかりやすく、探しやすい星座です。

ある日、野原で花つみをするエウロペの可愛い姿に、ゼウスは魅せられてしまい、真っ白な牡牛に姿をかえ、エウロペに近づきました。エウロペはしばらく牡牛と遊んでいるうちに、牡牛と打ち解け、すすめられるままに背中にまたがってしまいます。すると突然、牡牛は海に飛び込み、そのままエウロペをのせ、地中海を渡り、クレタ島へと上陸しました。

その後、牡牛はもとのゼウスの姿にもどり、愛をうちあけ、二人は島で暮らしたと言われています。またエウロペの名はヨーロッパ（Europe）という大陸の呼び名として残りました。

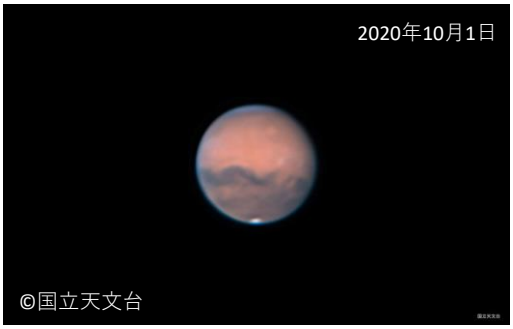
おうし座の牡牛がにっこり笑っているようにみえるのは、実はこんな物語があったからかもしれませんね。

今月の天文トピック

火星接近

12月1日、約2年2か月ぶりに火星と地球が約8100万kmまで最接近します。火星は太陽の周りを約687日で公転しているため、火星が太陽の周りを1周する間に地球は2周していることになります。この公転周期の違いから、2つの惑星は約2年2か月ごとに距離が近づき、軌道上で隣り合わせになります。

ただし、火星の軌道は楕円形をしており、軌道上のどこで地球と接近するかによって距離が大きく変化します。毎回火星の最接近距離は異なり、2018年の大接近では約5600万km、2020年の準接近では6200万kmと、現在は少しずつ遠ざかっていることがわかります。



それでも今回の接近時にはマイナス1.8等と、西の空で輝く木星と同様に非常に目立ちます。火星は木星のような巨大惑星に比べると小さな惑星ではありますが、地球の隣の惑星であるため、このように明るく輝くのです。約2年2か月ぶりの火星接近、そして冬の星々と競うように赤く輝く光景は見ものです。

博物館主催 スターウォッチング

博物館主催観望会

場所：伊坂ダムサイクルパーク管理事務所付近
◇１２月１４日（水）１９：００～２１：００「ふたご座流星群観望会」

博物館主催きらら号観望会

場所：博物館前市民公園
◇１２月２４日（土）１８：００～１９：３０「火星・木星・土星をみよう」

※当日受付･参加無料です。
※天候不良時は中止です。(通常3時間前に決定します)
※マスク着用、手指消毒をお願いいたします。

編集後記

12月に入ると今年も残りわずかだなとしみじみ思ってしまいます。2022年は、どれくらいの天文現象をみることができましたか？特に先月の皆既月食と天王星食は、天候も良く多くの地域で見られたのではないでしょうか。

12月も火星と地球の最接近など、チェックしておきたい天文現象があります。今年の星空も残りあと少し。しっかりみておきたいですね。

１２月の月

8日		満月
16日		下弦
23日		新月
30日		上弦